

畜産みやぎ

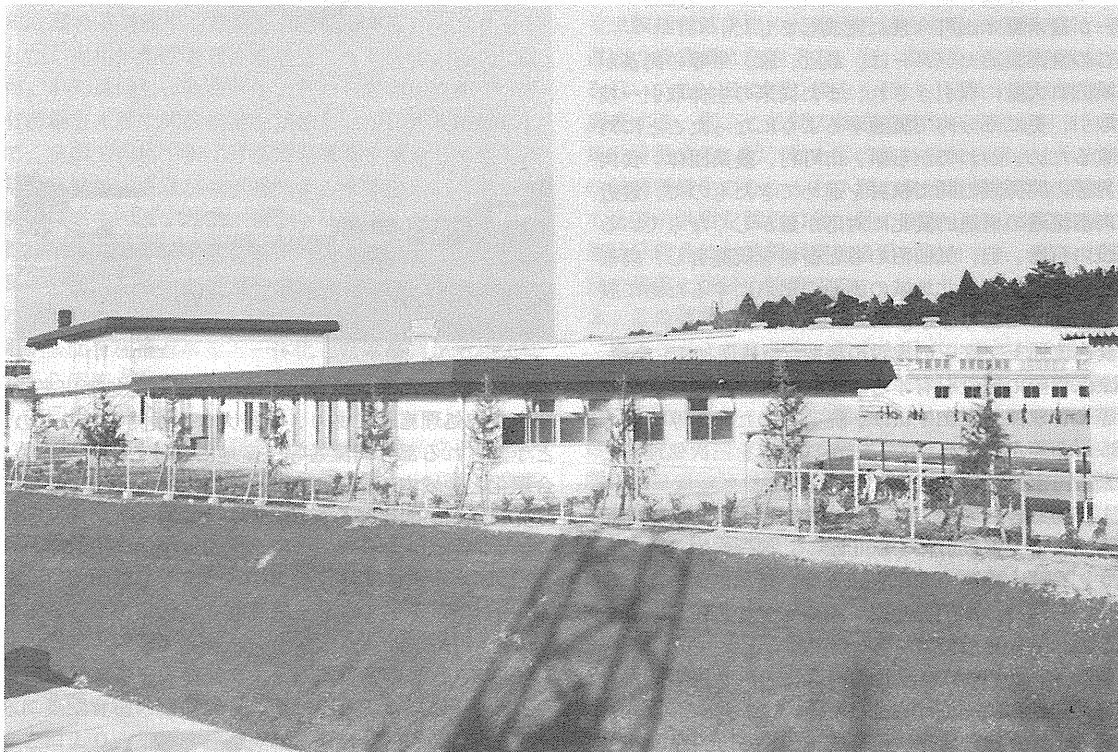
題字
宮城県知事 山本 壮一郎

発行所
仙台市上杉一丁目2番16号
法人 宮城県畜産会
電話 (62-9180)

編集発行人 大石 武一

定価 1部60円

印刷所 KK東北プリント



株式会社 宮城県食肉流通公社

も く じ

宮城県食肉流通センターの概要について……………	2
「肉用牛産肉能力平準化促進事業」がスタート……………	3
ホールクロップサイレージ利用による肉用牛の肥育について……………	4
K乳用雄子牛哺育育成センターに集団発生したサルモネラ症の発生事例と対応策について……………	5
宮城県養豚改良協会の紹介……………	7
とうもろこしの早晩性を示す相対熟度の適合性について……………	8
随想……………	10
人物紹介……………	11
畜産物の市況……………	11
人の動き……………	11

宮城県食肉流通センターの概要について

＝4月から本格的操業開始＝

宮城県畜産課

昭和54年度から2カ年計画で総工事費25億6百万円余をかけて建設を進めてきた宮城県総合食肉流通センターが登米郡米山町今泉に完成しました。

この食肉流通センターは、最近、豚、牛等の肉畜が広域的に大量に取引され、また従来の子体取引→枝肉取引、更に部分肉で流通するようになったことに対応するため、かねてから県、市町村、農業団体、食肉業界等の関係者の間で検討を進めてきたもので、最近の肉畜流通の構造的変化に対応が難しくなっている既設の石巻、迫、気仙沼の各と畜場を統廃合し、肉畜の主産地である県北地域の流通の拠点にするために設置したものであります。

食肉流通センターの施設の概要は、処理加工、冷蔵、冷凍保管等の施設を有する本館棟(5,867㎡)、事務室等の管理棟(1,014㎡)、従業員のための厚生棟(585㎡)等が主な施設で、ほかに排水を三次処理まで出来る汚水処理施設も備えています。

1日当りの処理能力は、豚換算(牛1頭:肉豚4頭に相当)で、と殺解体(800頭)、部分肉加工(520頭)、冷蔵、冷凍(4,300頭)で、産地においてと殺解体から部分肉加工、冷蔵、冷凍保管まで一貫して出来る近代的な施設です。

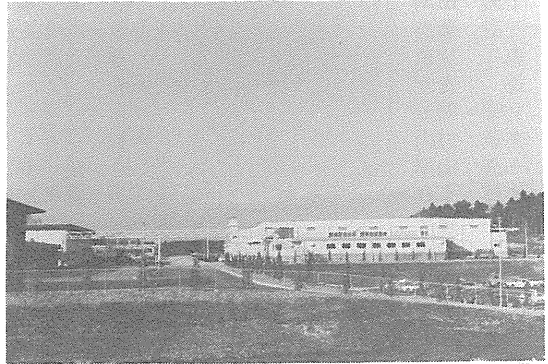
建設された場所は、米山町今泉にあった国有地を青森営林局から払い下げを受けたもので、約153,000㎡の広々とした敷地で周辺が保安林等のグリーンベルトで囲まれ、また地域に住んでいる人々も利用できる運動場等も併設されています。

管理運営は、県、市町村、農協等が構成員である㈱宮城県食肉流通公社があたりますが、食肉業界、農協等の市広い利用と便宜を図るため、利用者を中心とす

る利用者協議会をつくり、施設の効率的な利用を図ると共に施設の管理運営にあたっての利用者の要望、意見等も聞き入れることにしております。

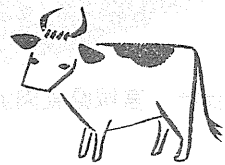
操業につきましては、2月12日から機械操作や処理作業の流れを調整するための試験操業を始めておりますが、操業体制を整え4月から本格操業に入っております。

この食肉流通センターは、宮城県の肉畜生産の約80%を占める県北地域の主産地において、と殺解体から



部分肉加工、冷凍、冷蔵保管まで一貫して処理出来る総合食肉処理施設であり、今後大きく展開されるものと予想される部分肉流通等、産地における肉畜流通の合理化と地域内の畜産振興に大きく寄与するものと畜産農家はじめ関係者から期待されています。

(肉畜係 滝口)



飼料は みのり

採卵鶏用配合飼料
ブロイラー用配合飼料
肉牛用配合飼料
乳牛用配合飼料

北日本飼料株式会社

石巻市川口町3丁目2番8号
TEL 石巻 02252 (5) 4171~4

畜産公害を追放する

家畜糞尿処理工事
さく井工事 畜舎工事
ポンプ工事 設計・施工
水処理工事

株式会社 北辰技術

仙台市鉄砲町18番地
電話 (0222) (93)2461

「肉用牛産肉能力平準化 促進事業」がスタート

宮城県畜産課

本県肉用牛の改良を促進する事業として、昭和53年度までに認定した、県内17肉用牛改良組合を基盤に800頭の基礎雌牛を指定し、昭和54年度からスタートした「肉用牛集団育種推進事業」も関係者の協力で計画どおり進展し、昭和56年2月から岩出山牧場で、県有種雌牛4頭の間接検定を開始したが、これに呼応して、全国で肉用牛集団育種推進事業を実施している20県を基盤に、各県が毎年選抜する直接検定に合格した候補種雌牛20頭(各県1頭)を毎年家畜改良事業団が買い上げて、広域センターに待機させ、新たに家畜改良事業団が設置した肉用牛検定場でこれら候補種雌牛の検定を行い、検定済種雌牛の全国供用を図る等、肉用牛集団育種推進事業と一体化した本事業が昭和56年度から実施されることになった。

1. この事業のねらい

全国和牛の能力の早期向上と産肉性等高位平準化を促進するため、事業の推進に必要な基金を家畜改良事業団が新たに設置し、全国20県で実施の肉用牛集団育種推進事業の一元的データの集約分析や各県が選抜した候補種雌牛を全国ベースでの集合検定を併行実施することにより、集団育種を推進する各県肉用牛改良の指針となるデータの提供と全国的に供用可能な検定済種雌牛を広域センターに繋養するとともに、さらに集団育種の諸情報と集合検定成績を結合分析することにより、集団育種の実施20県の特徴と改良の進捗をも明かにする。

2. この事業の仕組み

事業の内容を大別すると①から⑦までの広域種雌牛

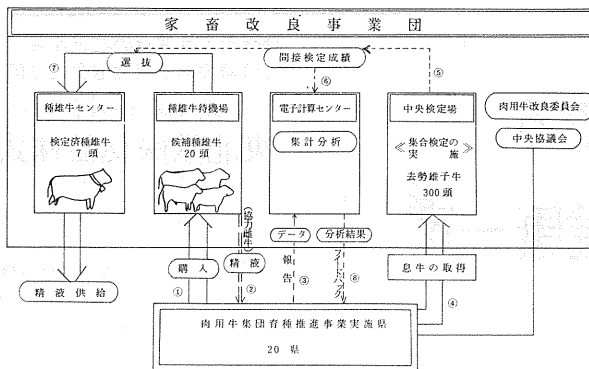
選抜事業と③⑥の各県集団育種の成績と集合検定成績の結合による分析等で以下番号順に内容を照合すると、
 ① 集団育種実施各県から、家畜改良事業団は、毎年、候補種雌牛20頭を買い上げ広域センターに待機させる。
 ② 待機中、候補種雌牛の精液を採取し、この候補種雌牛群の間接検定に必要な息牛生産に協力する全国の一般雌牛2,000頭(1候補種雌牛当り100頭)に精液を配布授精する。
 ③ 各県集団育種の調査、検定成績や協力受胎雌牛の血統等を家畜改良事業団に報告する。
 ④ 協力雌牛が生産した息牛800頭のなかから300頭(1候補種雌牛当り15頭)を協力各県から購入し、事業団の検定場に収容する。
 ⑤ 収容後20日間予備飼育を行い、364日に亘り検定を行い、屠体や産肉性能を調査する。
 ⑥ この間の検定成績をコンピューターで集計分析する。
 ⑦ ③と⑥の集計分析結果により20頭の候補種雌牛のなかから7頭の検定済種雌牛を選抜して全国の供用を図る。
 ⑧ ③の報告と⑥の検定成績の集計分析された結果が実施各県に送付され、県内の改良の指導と指針に使用する。

3. この事業に対する本県機能分担

集団育種の基礎雌牛の指定交配で生産される雄子牛のなかから20頭を買い上げ、昭和54年以来毎年直接検定の結果により4頭の候補種雌牛を選抜して、間接検定が終了するまで畜試に待機させているが、昭和56年度から家畜改良事業団が集合検定する本県産候補種雌牛を含めた5頭を選抜し、うち1頭を集合検定候補種雌牛として家畜改良事業団に譲渡する。また、集団育種実施20県から毎年譲渡を受けた20頭の候補種雌牛群の間接検定息牛を生産する本県の種付協力雌牛頭数は80頭程度で、20頭の候補種雌牛中3~4頭の息牛生産を分担することになり、今後、畜試待機の候補種雌牛の間接検定息牛生産と併せ、種付協力雌牛の倍増が必要となるので、生産農家の育種改良に対する理解と息牛生産のための協力が益々重要となる。

(家畜改良係 庄子)

肉用牛産肉能力平準化促進事業の模式図



〈畜試便り〉

ホールクロップサイレージ利用
による肉用牛の肥育について

西田 茂

肥育牛生産の生産費を低下させることを終局の目標として、自給粗飼料の大麦、コーンのホールクロップサイレージを使用した肥育試験を行ない第1次の成績を得たので概要を報告する。

1. 肥育方法

黒毛和種去勢牛15頭を3区の試験区に配し、区の平均体重が250kg～630kgに至るまで肥育した。期間を3つに分け、前期は450kgまでとし、期待する日平均増体重(DG)を0.8kg、中期は550kgまでで0.7kg、後期は630kgまで0.6kgとした。対照区は粗飼料に稲わらを用い、試験区はホールクロップサイレージ大量給与区と少量給与区にわけ、期間が進むに従い体重比で給与量を半減させた。

2. 飼料給与量、採食量

表1 飼料給与量・採食量 (1日1頭平均・kg)

区分	期別 種類	期別 体重			全期間 採食量計
		前期 250～450 kg	中期 450～550 kg	後期 550～630 kg	
I 稲わら区	ワラ	1.6 (1.6)	1.1 (1.1)	0.8 (0.8)	717
	濃厚飼	5.7 (5.7)	7.6 (7.6)	7.7 (7.7)	3,658
II 多量区	サイレージ	17.3 (17.3)	12.5 (12.4)	7.4 (7.4)	(風乾2,021) 6,650
	濃厚飼	3.4 (3.4)	5.5 (5.5)	6.7 (6.7)	2,360
III 少量区	サイレージ	8.0 (8.0)	6.3 (6.3)	3.7 (3.7)	(風乾1,049) 3,452
	濃厚飼	5.0 (5.0)	6.4 (6.0)	7.1 (6.0)	3,220

註 ()内は採食量

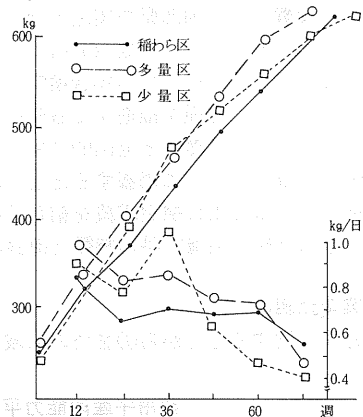
稲わら区では給与飼料は全期間採食され残飼はなかった。全期間の採食量は濃厚飼料3,658kg、稲わら717kgであった。多量区は中期においてサイレージに少量の残食がみられた。全期間の採食量は濃厚飼料2,360kg、サイレージ6,650kgであった。少量区は中期に入って濃厚飼料の残食が目立ち、中期には6%、後期には15%の給与飼料が残食され、肥育期がすすむにしたがい食い止りの状態となった。全期間の採食量は濃厚飼料3,220kg、サイレージ3,452kgであった。可消化養分総量(TDN)摂取量は多量区が全期間において稲わら区より5～21%(平均15%)高い水準となった。これはサイレージのTDN含量が予想外に高かったためである。

3. 増体量の推移

表2 所要日数と1日当り増体重 (DG)

区分	期別 項目	前期	中期	後期	全期
		250～450kg	450～550kg	550～仕上	250～仕上
I 稲わら区	日数	294日	127	131	552
	DG	680g	786	600	685
II 多量区	日数	236日	120	138	494
	DG	895g	832	537	761
III 少量区	日数	228日	147	198	573
	DG	890g	681	369	654

図1 平均体重DGの推移



牛乳を飲んでる
食べてる健康一家

動物用薬品器材のことなら 古い伝統
と信頼のある東北獣医にご用命下さい

本社 仙台市上杉3丁目3-8

東北獣医薬品株式会社

TEL 25 7330・7338・7339

仙北営業所 登米郡迫町佐沼萩洗1
02202(2)2278-9

山形営業所 山形市小石川四丁目9-24
0236(23)9909・9900

古川営業所 遠田郡小牛田町宇関根館野28
02293(4)2018-9

全期間を通じてのDGは多量区が良く、これはTDN摂取水準の影響と考えられた。前期には少量区に食い止り現象があらわれ低いDGとなった。後期には稲わら区が最もよく、少量区は異常に低くなった。

表3 1kg増体に要した養分総量 (TDN)

区分	項目	期別			
		前期	中期	後期	全期
I 稲わら区	TDN	7.0	7.5	9.7	7.7
	計算値	6.6	7.5	10.5	-
II 多量区	TDN	6.9	7.7	11.6	8.1
	計算値	6.0	7.3	11.3	-
III 少量区	TDN	5.8	8.2	13.8	8.0
	計算値	5.9	7.9	13.5	-

註 計算値：実測DGに対する日本飼養標準のTDN要求率を示す。

1kg増体に要した養分量(TDN)では前期で少量区、中、後期で稲わら区が良い結果となった。特に多量区の後期および少量区の中、後期は稲わら区に比べ要求率悪化が著しかった。これは給与飼料中の粗せんい率が標準(450kgまで13%、肥育期6%以上といわれる)を、中期の少量区、後期の多量区、少量区が下回ったこと、今回供試した微切断(1.0cm以下)ホールクロップサイレージは粗飼料に期待される物理性(長さ堅さ大きさ等)を欠いていたことが反芻胃の機能を低下させたためではないかと考えている。

4. と体成績

表4 と体成績

区分	項目	と殺前 体重	枝肉重	枝肉歩留	枝肉格付			サン
					極上	上	中	
I	稲わら区	613	373	60.8%	1	2	2	2.2
II	多量区	611	374	61.2			5	0.9
III	少量区	603	376	62.2	1	1	3	1.9

枝肉歩留りに差は認められなかった。サンの入りは多量区が悪かったが、肥育期間とサンの間に正の相関が認められ(5%水準で有意)かならずしも給与飼料の影響とは判断できなかった。脂肪の色は各区共に上の判定となり、取引上問題とされなかったが、多量区で肉眼的にやや黄色味を帯びていた。その他の枝肉各部位の測定値に区間の差は認められなかった。

ホールクロップサイレージは肥育牛にとってし好性と栄養価の高い自給飼料であるが、蛋白質、ミネラル、ビタミン含量が低いこと、微切断されると粗飼料の物理性を欠くことに注意が必要である。なお当場において本試験を継続実施し、より効率的な給与法を探索していく予定である。(研究第1部肉牛科)

東 西 南 北

K乳用雄子牛哺育育成センターに

集団発生したサルモネラ症の

発生事例と対応策について

最近、サルモネラ感染症による経済的損失や公衆衛生上の問題が増加する傾向にある。今回K乳用雄子牛哺育育成センターにおいて、下痢症が発生したのでその発生事例と対応策について述べる。

1. 飼養状況および発生経過

当センターは年間育成頭数100頭の規模であり、一棟の牛舎を月令毎に小区分したルーズバーン方式による年間4回県外家畜市場から新生子牛を導入し飼育している。発生牛は、北上家畜市場より11月2日~5日にかけて導入した23頭(平均月令7日令)のうち11月5日を初発とし16頭発生、病性鑑定依頼に当るまで10頭へい死した。

2. 組織化および検査の進め方と対応策

図1で示されるように家保が中心となって検討会を開き、関係者の組織化を計り現状への対応と原因の究明という課題をあげ各自の役割を明確にし、同時進行させた。

1) 検査および結果

画期的な家畜ふん尿処理用
めづまりのない

多板式固液分離機

- 生ふん脱水の決定版
- 公害防止に貢献
- 省力化に威力

株式会社 五十嵐商会

仙台市中央三丁目5番14号

TCM東洋運搬機

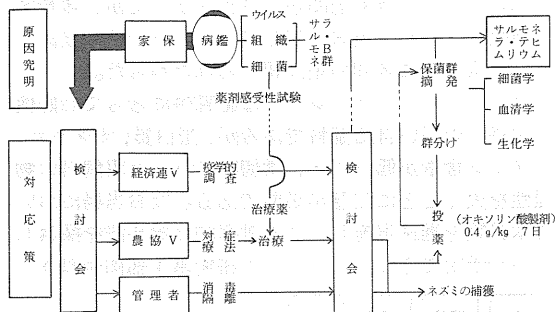


糞尿処理工程のあらゆる局面で活躍。
畜産農家の近代化に
作業の省力化に大きく貢献します。
豊富なアタッチメント。

TCM東洋運搬機株式会社
東北ディー・シー・エム株式会社

983 仙台市日の出町3丁目9-35
電話 0222-95-5517・5511

図1 検査の進め方と対応策



細菌検査においては実質臓器からグラム陰性桿菌が分離された。その所見からサルモネラが強く疑われたので当該菌に関する検査を実施した結果表1に示されるように分離菌株はサルモネラ属の性状に一致し、ためし凝集反応はB群に凝集、H抗原は第1相が*i*、第2相が1であり、サルモネラ・テヒムリウムと同定した。

2) 対応策

表1 分離菌の生物および生化学的性状

形	態	かん菌
グラム染色		-
T S I	乳糖	+
	ブドウ糖	+
	硫化水素	+
S I M	運動性	+
	硫化水素	+
	インドール	-
	I P A	-
C I T		+
リジン脱炭酸		+
マロン酸塩		-
V P		-
M R		+

血清学的検査成績
 ためし凝集反応(混合O血清) +
 O群およびH抗原検査 B:1:1

原因がサルモネラ・B群と判明した段階において今後の進み方として、④回復保菌牛による群の汚染度、⑤発生傾向の予察、⑥侵入経路等を対応の目安とした。このことに基づき、飼養牛全頭の糞および血液を採材し細菌、血清(ゲル沈)学的検査を行なった結果表2に示すように(1)細菌検査では同居群において4頭から菌が分離された。(2)血清学的検査による月令別保菌状況については、マクファーランドNo.9に調整した分離菌を抗原として行った寒天ゲル内沈降反応の結果では、陽性率が1ヶ月令以内牛では100%、3ヶ月令牛では60%、7ヶ月令牛では陽性のはみられず月令との関係では有意差を認めた。以上の検査からゲル内沈降反応陰性、菌非分離のものを健康群、菌分離されたものを保菌群、ゲル内沈降反応陽性のものを保菌可能性群、および低 α -Glのものを発症可能性群の4つのランク付けを行なった。そこで菌分離された保菌群に対しては、消毒とともに0.4g/kgのオキシリン酸製剤の7日連続投与、発症可能性群に対しては管理を指導した。なお菌の移行および薬効判定のため全頭の細菌検査を行った結果、保菌群であったものが陰性となりあらたに保菌可能性群から4頭の陽性牛が検出されそれら4頭を一群として隔離し0.4g/kgのオキシリン酸製剤の7日連続投与を実施した。

表2

		月齢	7	3	1
検査	結果	頭数	31	35	12
細菌学的	+				4
	-	31	35		8
血清学的 (寒天ゲル内 沈降反応)	+		21		12
	-	31	14		
	陽性率	0	60.0	100.0	

3. 今後の対策と問題点

1) 対策として

(1) 清浄化のために哺育期において健康検査を実施し、早期に保菌牛の摘発を計るとともに使用する薬剤の選定および病原体の発育を抑制するよう投薬を適切に行なった。

(2) 導入時については、購入予定地における疾病

牧場用柵には
強くて美しくスマートな

東伸製鋼牧柵を!

製造元 東伸製鋼株式会社営業所
仙台市一番町二丁目7-5 TEL 0277053

販売元 塚本商事機械株式会社出張所
仙台市花京院二丁目1 TEL 627771

代理店 本山振興株式会社
仙台市昭和町6番10号 TEL 046221

システム農業をクリエイトする

STAR

タフで働きものの
Mr 3000にチビの
Mr 2000が新登場



THB 2000

スター農機株式会社

仙台出張所 983 仙台市福田町2丁目4-20 佐正ビル内
0222-58-7301

発生状況の把握と計画的かつ初乳を十分に飲用した子牛の導入、健康検査を実施して健康牛および虚弱子牛に群分、隔離し、専任従事員を置いて管理する。また採材した血清等を保存し、病原体の早期解明と病性判定に利用する。以上のことを実施することにより発生予防につなげる。

2) 問題点として

(1) 現状において導入時の疾病発生予防として同種類の薬剤を連用していることから薬効が期待できない。また月令群の構成が不ぞろいになりやすい現況においてオールアウトの処置ができない。

(2) 今後については、初乳飲用のチェックおよび管理労働力に見合った子牛の計画的導入、管理従事者に対し疾病に対する認識を高めることが適切な管理、早期発見により損耗防止につながることがあげられます。

4. 考察およびまとめ

K哺育センターにサルモネラ感染症が発生したので関係者と協議のうえ組織化をはかり対策を検討し、発病への治療、同居群の保菌状況検査、適確な投薬などを実施したため死亡牛はみられなくなった。本件発生は悪環境、管理者の疾病に対する認識不足および素牛管理の失宜が大きな要因となっていることから感受性が高い幼牛の被害を軽減することを目的に現場において対応可能な防疫対策を次のようにまとめた。

①導入は定期的におこなう。②導入牛は1ヶ月間隔り観察し、異常牛は牛舎内に入れない。③日令が進んだ牛との混合はさける。④発症牛群はすぐ隔離し、牛舎汚染を最小限にとどめる。⑤汚染された飼槽中の飼料や敷料は排棄し十分な牛舎消毒が行なわれるまで導入は中止する。⑥死産牛は病性鑑定を実施し、他の原因による下痢症との類症鑑別をすること。⑦出入口には消毒槽を設置すること。⑧定期的にネズミ駆除を実施すること。

以上のことから集団哺育管理に当っては流通経路および予防衛生について十分な指導強化をはかる必要性を痛感した。

(古川家畜保健衛生所技術主査 大橋 義信)

宮城県養豚協会の紹介

本県は昨年の冷害による稲作を始め、農業に大きい打撃を与え厳しい年であり、又来年度は第2期水田利用再編対策事業による営農改善が求められ更に畜産では輸入飼料の高騰に畜産物輸入問題と畜産物需要の延び悩み等、畜産については今後益々厳しさが増すものと思はれますが、しかし本県における農業所得の26%が畜産収入で占され、その内養豚粗生産額は330億円の本県における最も重要な産業でもあります。

この様に、本県養豚は年々急速な進展を遂げ生産子豚の約半数以上を関東地方等の県外に供給する全国有数の養豚県としての地位を確立しつつありましたが、近年生産力が増強されたこともありまして需給の安定にかげりが見られ品質等が問われる現況であります。この品質については豚取引の格付について見ても、上物率が昭和50年には51%、52年には41%と低下し、54年では32%まで落ち込み、その損失も約40億円と見込まれております。

しかしながら、これ等の実情にもかかわらず本県の養豚は、各関係団体等の指導のもとでそれぞれ生産されており連携協調体制が確立されないうえ、それぞれの立場において振興対策の推進が行なわれておりその効果が期待するに至らず近年急速に品質低下を招き、県内はもとより県外養豚関係者まで信頼性の低下が憂慮され併せて需給に見合った計画生産の推進、収益性の向上を図るうえからも各関係団体が一体となり一貫した本県養豚改良増殖の適正な推進体制の建直しが緊要であることを痛感いたし組織の拡大強化を図り、効率的事業効果を期待するため県内養豚団体を網羅した新たな「宮城県養豚改良協会」が去る昭和55年12月2日設立されたので、その概要を紹介し県内養豚関係皆様のご支援とご指導をお願いするものであります。

当協会は宮城県経済農業協同組合連合会畜産部内に

美と健康に牛乳を

新鮮な宮城県産牛乳を
飲みましょう

宮城県牛乳普及協会

仙台市錦町二丁目一番40号
0222 (63) 7688

* 甘いかおりの塩

新しい形のミネラル入固形塩

くみあい **ソルト80**

* 家畜、家禽の能力増進に

ビタミンAD₃E 水溶性

アデー「ゾル」



農協・宮城県経済連

事務所を置き、会員は県一円の養豚関係団体と各広域営農団地運営委員会及び各地区養豚協会並びに養豚事業を重点に行なっている農業協同組合等24団体で構成し、役員14名(理事11名監事3名)で会長には宮城県経済農業協同組合連合会の佐藤鉄山会長が当協会の会長に就任し、専任の職員を置いて推進する体制となっております。

当協会の主な事業内容としては

1. 関係機関、関係団体との連絡調整
2. 種豚改良増殖体制の改善整備と豚肉品質向上対策
3. 種豚並びに肉豚生産流通
4. 種豚に関する情報並びに技術の交換及び研究発表

等目的達成のため必要な事業となっておりこれを実施するために、次の部門の専門委員会を設置し会員及び養豚に関する試験場、大学及び団体職員の学識経験者を委員に委嘱し、事業の建議及び内容の審議を得て運営する事になっております。

1. 種豚改良対策専門委員会
豚の改良方針及び事業等の立案審議
2. 豚肉品質向上対策専門委員会
豚肉品質向上及び生産体制の確立等の立案審議
3. 流通対策専門委員会
種豚並びに肉豚の生産流通等の立案審議

以上当協会の概要について簡単にご紹介いたしましたが当協会運営のみならず養豚農家の安定的経営と豚市場における上物率の向上を図り本県の養豚事業の信頼性を高めるためにも、今後県当局を始め各養豚関係団体の強力なご支援とご指導を賜わるとともに、多くの農業協同組合と関係団体の当協会ご加入を節にお願います。

宮城県養豚改良協会 事務局

とうもろこしの早晩性を示す 相対熟度の適合性について

— 有効積算温度の検討 —

及川 恵寿


とうもろこしの早晩性は、広く有効積算温度(EHU)を根拠に相対熟度(RM)で示されているが、RM設定の基準地(育成地あるいは栽培試験地)が品種により異なるため、栽培地にそのまま適用できないと考えられる。RMで示される早晩の序列、幅及び根拠となっているEHUに単純積算温度(SHU)を加え、これらについて検討を試みたので参考に供したい。

材料及び方法


昭和53年から55年までの3ケ年、標準的な栽培管理をし収穫した、表1の8品種を用い検討した。各年の播種から収穫までの日数は53年100日、54年96日、55

表1 供試品種

No.	系統番号	商品名	育成場所	RM
1	長交590号	タカネワセ	長野農総試 中信地方試	110
2	長交523号	アズマイエロー	長野農試 桔梗ヶ原分場	110
3	P-3715	バイオニアA	アメリカ バイオニア社	110
4	TC5号	交3号	長野農試 桔梗ヶ原分場	115
5	W-654	ウィスコンシン 115	アメリカ、ウィス コンシン農試	115
6	JX-188	ニューデント 115	アメリカ ジャックス社	115
7	P-3575	バイオニア 中晩生種	アメリカ バイオニア社	115
8	G-4553	スノーデント 1号	アメリカ ファンクス社	120



飼い上手 育て上手は……
みのたに……で
動物薬品・獣医器具総代理店
株式会社 美濃谷



こくておいしい大型びん……

森永 ハイクラウン牛乳

宮酪乳業株式会社
名取市飯野坂字山居
TEL 02238-4-5181

本店	山形市蔵王成沢字町浦491~2	TEL0893121
山形店	山形市蔵王成沢字町浦491~2	TEL0893121
仙台店	仙台市山田字羽黒堂5番216	TEL4934306
鶴岡店	鶴岡市大字布目字東通り57~1	TEL240963
いわき店	いわき市常磐湯本栄田3	TEL0246440300

年122日で、全品種同時播種、同時刈取した。栽培は3ヶ年共、同一圃場で行い、その面積は各品種10㎡、3反復(乱塊法)の30㎡とした。

結果及び考察

供試品種のRMによって示されている早晚性の序列を確認する目的で、RMと絹糸抽出期(抽糸期)、総乾物率(TDM)及び雌穂乾物率との相関関係を推算したが、いずれも無相関でRMによる早晚性の序列の適合性は低かった。

また、とうもろこしの早晚の差は抽糸期までの栄養生長期間の長短であって生殖生長や登熟期間の差は少ないとされていることから、抽糸期について品種と年次の2元配置で供試品種(No.1除く)の早晚順位を推定して表2に示した。品種間、年次間共に有意の差が

あり、年次による差の方が大きくより多くのデータ蓄積の必要性が示唆された。最も早いバイオニア中晩生種と最も遅いスノーデント1号の差は約4日でRMの示す10日の幅よりせまかった。

これらからEHUを根拠にして求められた現行のRMによる表示は、早晚順位の適合性が低いことのみならず早晚差の幅も適合性が低かった。

RM設定の指標として、EHUとSHUの利用性は表3のとおりとなった。3ヶ年のTDM順位とSHUはよく適合したが、EHUは適合しなかった。さらに抽糸

各品種の順位 (P<0.01)

No.	RM	播種～抽糸	順位
2	110	73.8 日	5
3	110	71.9	2
4	115	75.3	6
5	115	73.7	4
6	115	72.9	3
7	115	71.7	1
8	120	75.6	7

各年次の抽糸期 (P<0.001)

年次	播種～抽糸
53	72.9 日
54	71.6
55	76.0

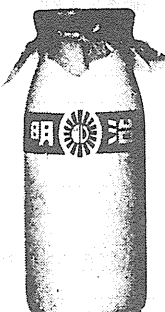
期と播種から刈取までの両HUとの間には共に有意な相関関係が認められたが、TDMと抽糸期から刈取までの両HUの間にはSHUの方だけに有意な相関関係が認められ、日平均気温10℃以下の温度は無効とするEHUより、全ての温度を積算したSHUの利用性が高いと推察された。

今後さらにデータの蓄積を行ないこの問題を解明して行く考えである。この稿が幾分なりとも参考となれば幸いである。

表3 EHUとSHUの利用性

年次	播種～抽糸		抽糸～刈取		播種～刈取		総乾物率 (%)
	EHU	SHU	EHU	SHU	EHU	SHU	
53	860.8~876.6	1,590.8 ~1,616.6	414.6~430.4	674.6~700.4	1,291.2	2,291.2	28.6 (3.2)
54	715.6~884.9	1,395.6 ~1,674.9	258.1~427.4	428.1~707.4	1,163.2	2,103.0	21.4 (1.7)
55	818.2~873.9	1,578.2 ~1,673.9	311.5~366.8	731.5~826.8	1,185.0	2,405.4	30.0 (4.1)
53~55	抽 糸 期		総 乾 物 率				() = SD
r	0.745**	0.902***	0.189	0.665***	** P<0.01	*** P<0.001	

(県畜産試験場研究第3部)




いつもフレッシュ!!

明治牛乳

明治乳業

酪農協の牛乳!

全酪牛乳



全国酪農業協同組合連合会 (全酪連)

小牛田工場 遠田郡小牛田町牛飼38

TEL 02293-3-2211-3



馬 想 考

此の程機会があって、欧州5カ国（伊、西独、仏、英、スイス）を訪ねる事が出来13日間の旅を終え帰って来たが、各国とも農村、都会と言わず多くの馬にめぐり会う事が出来、ふと永い県庁勤めにおいての馬の思い出が湧いたので筆をとって見た。

昭和23年復員し県庁に御世話になった頃は、戦後と言え、まだまだ馬の全盛時代で当時の畜産課の先輩は殆んどが馬に関係した人ばかりで、春のシーズンにもなると先輩は2～3カ月の長い間馬の種付指導等で課を留守する事が多い時代でもあった。馬の頭数は軍馬として軍の機密とされ、はっきりした頭数は判らない時代でもあったが、本県で約8万頭位と思っている。その後軍馬から農耕馬や小運搬の鞍馬として飼養され、当時は丸通に鞍馬課があり「馬の飼養管理の手引」を発行し指導しており、また各地で馬市が盛んに行なわれ5日位続いて開かれ地方のお祭でもあった。県においても馬に関する施策や補助事業も華やかであった。その後農業も機械化が進み、丸通の小運搬もトラックにかわり馬も自然と少なくなり使役馬から競走馬と肉用馬変り県でも戦後復興を図るため仙台市長町や石巻市雲雀丘で県営競馬が行なわれたが、当時は競走馬と申せ今の様な優駿まで行かず農耕馬に毛が生えた程度のものであった。又肉用馬の奨励としてブルトン種が輸入され種畜場に繋養されたものである。

私が昭和29年に宮黒家畜保健衛生所に転勤した当時は家畜防疫と言え馬伝賃検査が主体で、毎年暑い盛りに毎日の様にバスや自転車に乗り馬の頸から1ccの血液を採取し、思い出して見れば私が7年間の宮黒時代に1人で6千頭位の馬と接したのではないかと知っている。或る時は馬に踏まれたり、噛まれたりしたが、大した怪我もなかった。もっとも馬の好きな私としては苦にもならず、毎日の様に馬に触れると、馬の性格、顔付き、動作等が一見して判る様になるものである。今は馬と接する機会がほんとに少なくなった。極端な言い方かもしれないが、今の子供達から見た馬はテレビ等で見る競馬か、サーカスの馬しか思い浮んでこないかもしれない。岩手のチャグチャグ馬、相馬の野馬追等の馬の祭や、鞍馬大会の催物は今でも地方によっては行なわれているが、馬を集める事が難しいようで、欧米では国や団体等で馬の品種の保存、改良を積極的に行なっていると聞いているが、日本では不思議と競馬だけは盛んであるが、一方では日本在来馬が消えそうとなっている。天然記念物の「カモシカ」より馬の

頭数が少ないのではないかと知っている。まさに天然記念物化している。日本在来馬は勿論、馬の保存と産業としての馬を蘇えさせたいものである。

(上泉)

昭和56年 2月 1日現在の子取り用

雌豚飼養頭数について

宮城県畜産会

今後の豚肉需給の見通しと対策の資料並びに養豚生産者台帳の整備を図るため、56年2月1日現在の子取り用雌豚飼養全戸（商系、業者含む）を対象に実態調査を実施しておりましたが、その集計結果は下表のとおりです。

本調査に際し、諸務ご多用中のところ種々ご協力頂きました各家畜保健衛生所並びに関係者各位に対して厚く御礼申し上げます。

子取り用雌豚飼養頭数調査集計表

区分 家保名	55. 8. 1		56. 2. 1		比較増△減		対55.8月比	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
大河原	312	4,181	299	4,256	△ 13	75	95.8	101.8
仙 台	331	2,777	315	2,830	△ 15	53	95.2	101.9
古 川	2,718	17,645	2,546	17,165	△ 172	△ 480	93.7	97.3
築 館	752	6,886	665	6,566	△ 87	△ 320	88.4	95.4
迫	2,236	12,579	2,157	12,708	△ 79	129	96.5	101.0
石 巻	678	5,377	677	5,025	△ 1	△ 352	99.9	93.5
合 計	7,027	49,445	6,659	48,550	△ 367	△ 895	94.8	98.2

畜産物の市況

種 目	規格	単 位	価 格	摘 要
卵	A級	1 kg	373	卸売価格2月平均
ブロイラー	A級	と体1 kg	303	〃
豚 肉	上	枝肉1 kg	733	〃
	中	〃	710	〃
牛	和牛メス	上	2,175	〃
	和牛スキ	上	2,124	〃
	〃	中	1,783	〃
肉	乳牛メス	中	1,281	〃
	乳牛スキ	中	1,214	〃
和牛子牛		1 頭	402,597	小牛田家畜市場3月10日平均
子 豚		1 頭	37,754	〃 3月25日平均

卵、ブロイラー、豚肉、牛肉価格……県経済連調べ
和牛子牛、子豚……県畜連調べ

人物紹介



赤間 東吉氏

昭和15年東京高等農林学校農学科を卒業され、白石高等女学校の教師となられたが、太平洋戦争勃発と同時に現役応召、飛行士として、中支、フィリッピン、マレーシア等の激戦地を転戦、戦闘機を駆使敵機と闘ったが、戦闘でジャングルに不時着、九死に一生を得、昭和21年復員した。

飛行機の操縦は自動車より簡単と微に入り細に巨りお話しされ楽しく拝聴したものである。

復員後宮城農学校の教壇に立たれ、昭和27年宮城県農業試験場に替られ、昭和48年農業センター営農機械部長を最後に県を勇退されました。

請れて県畜産会常勤畜産コンサルタントとして、畜産農家の経営指導に当り経営の安定合理化に努められ、昭和55年12月退職されました。

当初は畜産が専門外のため戸惑を感じておられ、大分苦勞されたようでしたが、専門の経営だけでなく、技術面まで習得され、その努力には敬服しておった次第です。

お酒はビール1本程度ですが、趣味でおやりになっている「うたい」は友人はだして、そのノドと踊りは知人ぞ知るほど有名です。

今後は、町内会長として地域の発展に尽されるところですが、種々雑用が多いことでもあるので、健康には十分留意され、益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

(菅原)

住所変更

社団法人 宮城県家畜畜産物衛生指導協会
〒980
仙台市上杉一丁目2番16号
宮城県農協会館内
電話 0222 (63) 6451
(63) 6452

新刊図書案内

- ◎粗飼料生産の新技術
◎効率的な養豚技術

発行 中央畜産会 定価 1,300円

お申込みは、宮城県畜産会へ

人の動き

宮城県

4月1日付

退職(3月31日付) 農政部技術副参事
" (") 築館家畜保健衛生所長

庄司 近志
我妻 守博

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes in the Livestock Health Division.

技師	(新採用)	沼辺 孝
仙台家畜保健衛生所次長	大家原家畜保健衛生所技術主幹兼防疫課長	岡崎 稔
技術主幹兼指導課長	石巻家畜保健衛生所技術主幹兼指導課長	熊谷 常雄
病性鑑定課長	畜産課技術主査	佐藤 裕一
技術主査	迫家畜保健衛生所技術主査	馬場 信義
技術主査	畜産課技術主査	佐藤 新六
技術主査	仙台家畜保健衛生所技師	高橋 勝一
主事	仙台福祉事務所主事	郷家 信子
技師	大家原家畜保健衛生所技師	木船 厚恭
技師	(新採用)	松田 悦子
衛生学院技術主査	仙台家畜保健衛生所技師	後藤 庄三
古川家畜保健衛生所所長	古川家畜保健衛生所所長	亀井 康
次長	古川 技術主幹兼防疫課長	米倉 毅
技術主幹兼防疫課長	築館 技師	三浦 智文
技師	仙台 技師	川村 芳夫
技師	(新採用)	横山 亮一
築館家畜保健衛生所所長	古川家畜保健衛生所次長	日下 義光
防疫課長	大河原 技術主査	早坂 洋嗣
白石農業改良普及所技術主査	築館 技師	斉藤 敏
築館家畜保健衛生所技術主査	古川 技師	大橋 義信
技師	(新採用)	菅原 貞二
迫家畜保健衛生所所長	畜産課技術補佐	大場 民雄
指導課課長	技術主査	荘司 尚
技師	築館農業改良普及所技師	菅原 正義
技師	(新採用)	高橋 健
石巻家畜保健衛生所技術主幹兼指導課課長	迫家畜保健衛生所技術主幹兼指導課長	石川 英
防疫課課長	畜産課技術主査	佐藤 信嘉
技術主査	畜産試験場研究員	阿部 司
畜産試験場免乳牛科長事務取扱	研究第一部長兼乳牛科長事務取扱	渡辺 弘
研究第一部主任研究員肉牛科長	石巻家畜保健衛生所技術主査	菅原 寅吉
研究第三部 草地飼料科長	岩出山牧場技術主査	佐々木義男
研究第一部 兼経営研究科長	経営研究科長	佐久間敏彦
研究第一部乳牛科長	研究第一部肉牛科長	茄子川重晃
石巻土地改良事務所総務課総務係長	畜産試験場主事	桐生孝太郎
畜産試験場 総務課総務係長	大崎広域水道総務課総務係長	大沼富寿男
主査	主事	堀 かつゑ
岩出山牧場長	仙台家畜保健衛生所技術主幹兼指導課長	小林 薫
技師主幹	畜産試験場研究第三部草地飼料科長	大山 勝雄
肥飼料検査所技術主幹	肥飼料検査所技術主任	二宮 祐吾

宮城県家畜畜産物衛生指導協会		4月1日付
事務局 長	(新規採用)	庄司 近志
嘱託 記	事務局 長	三浦繁太郎
記	(新規採用)	島貫 稔
県畜産物価格安定基金協会		1月1日付
事務局 長	(新採用)	佐藤 義光
県畜産農業協同組合連合会		4月1日付
業 務 課	(新採用)	三浦 光也
県養豚改良協会		4月1日付
事務局 長	(新採用)	上泉 貞男
県経済農業協同組合連合会		4月1日付
食肉養鶏課	(新採用)	小野 健一